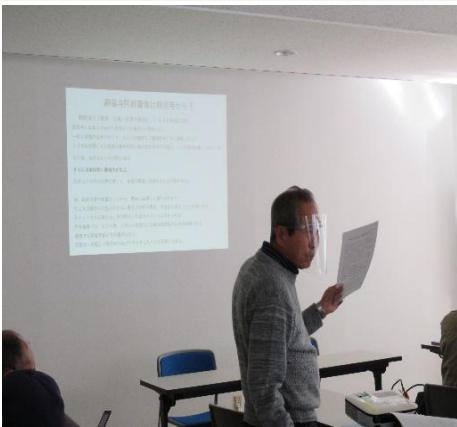


「興福寺十大弟子像及び八部衆・額安寺移入説」 9 期生 佃 敏晴氏



■興福寺阿修羅像は額安寺から？

興福寺には実は 2 組の八部衆と十大弟子が一時あった。一組は興福寺固有のセット、もう一つは額安寺（額田部寺）から移転したものであった。12 世紀初頭到大江親通が嘉承年間に興福寺・西金堂を訪問した際に、この 2 組の仏像にふれている。その後、後者はもとの額安寺に返却される。さらに、治承年間に興福寺が炎上（平重衡の南都焼き討ち）。前者はこの時に灰塵に帰して、後者が再度、移管されたとの説がある。否、脱乾漆像で軽量なことから、難を逃れ再度、西金堂に収まったとの説もある。佃氏による歴史ミステリーの謎解きが始まりました。R3. 2.22

興福寺十大弟子及び八部衆・額安寺移入説

■国宝に現存する十大弟子像&八部衆像に関する論争■

A:西金堂創建当初のものなのか？

B:治承4年の兵火で失われた後、額安寺から移されたものなのか？

◎安藤更生氏(1900~1970)美術史家 早稲田教授(文学博士)
「興福寺の天龍八部衆と釈迦十大弟子像の伝来について」(昭和 4 年)
:現在の十大弟子像と八部衆像 西金堂当初の像であると主張
◎小林 剛氏(1903~1969)美術史学者 奈良国立文化財研究所所長
「興福寺十大弟子像と八部衆像の伝来について」(昭和 7 年)
治承4年(1180)12月28日、平重衡の兵火により興福寺の伽藍のほとんどが失われた時、西金堂創建時に造られた十大弟子像と八部衆像は乾漆像で持ち運び易かったため、奇蹟的に助けられたという説

あり得ない

治承四年の兵火

南都焼討

治承4年12月28日(1181年1月15日)

平清盛の命を受けた平重衡ら平氏軍が、東大寺・興福寺など奈良(南都)の仏教寺院を焼討にした事件。

平氏政権に反抗的な態度を取り続けるこれらの寺社勢力に属する大衆(だいにしゅ)の討伐を目的

玉葉治承4年正月6日の條

被害を逃れた堂宇
東大寺 二月堂、法華堂、鐘樓、転害門、正倉院
興福寺 禪定院(奈良ホテル辺り)

已上、三箇寺、兩院、内外堂金僧房在家、不知数焼失了、
御佛一體不奉取出之、是猶恐官兵也

興福寺の殆ど総ての仏像等が灰塵の中に葬られたと推察すべし



興福寺西金堂創建時のものか？

ほぼ総ての仏像が灰塵に化した

興福寺曼陀羅絵図の阿修羅は炎髪

寺伝

昭和初期十大弟子像と八部衆像は興福寺内で額安寺古像と伝えられていた(根拠)

興福寺 聖徳太子

十大弟子(各尊名略)
各立像御長四尺八寸
佛頭問答師造 額安寺古像
八部衆(各尊名略)
各立像御長五尺
佛頭問答師造 額安寺古像
右十大弟子十幅八部衆八幅貞永元年壬辰十二月十七日修復

興福寺文書、享保2年2月 興福寺御伽堂の諸尊今度焼失相續家録

上記と同じ記載に加えて享保2年(1717)

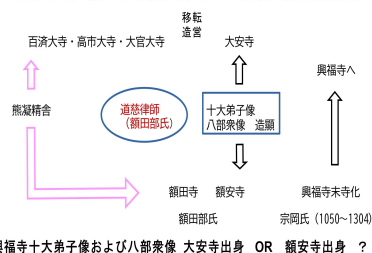
繪所大佛師寺主鹿度 幸賢 幸賢 幸林 慶尊
大佛師重賢 慶干 永賢 幸金 定照
大佛師幸平 幸干 勝慶 圓慶 重命
清師權守安長 敬位五女
但十大弟子八部衆修復
貞永元年壬辰十一月廿日始之十二月十七日終功

貞永元年(1232)における修理の詳細があるが、かなり正確な古記録があった

十大弟子像・八部衆像の額安寺における来由

額安寺の縁起沿革に関して史料は殆どない

額安寺 聖徳太子の故地に道慈律師により建立された額田部氏の氏寺
大安寺に十大弟子像および八部衆像が存在した・大安寺伽藍縁起并流記寛財帳



興福寺伝には額安寺古像と伝わる

八部衆像は大安寺出身かも？

(参考)興福寺への仏像移入

①桜井・山田寺の薬師三尊像

興福寺国宝館に金銅仏頭(本尊)
東金堂に脇侍(日光・月光菩薩)
安置されている。

九条兼実の日記『玉葉』に、「東金堂衆が山田寺の薬師三尊像を奪取し東金堂の本尊とした」旨の記述。

②奈良・大安寺の四天王像

興福寺北円堂に四天王像を安置
「四天王像はもと奈良の大安寺に伝承し、延暦 10(791)年に制作された」旨の墨書が增長天と多聞天の台座の框裏にあり。

③額安寺の虚空蔵菩薩半跏像

十大弟子・八部衆像は奈良時代の仏像であるが、額安寺には同代の虚空蔵菩薩半跏像を所蔵していた。

■次回の予定

3月22日(月)ガイド研修

ちょっと昔の城下町「鍛冶町」

講師：山川 均氏

構成/金澤・写真/岡本・文責/浅井